

相双「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

No.13 2017年2月
福島県相双農林事務所

メニュー

- ◆ロボットトラクタ現地実証見学会を開催しました
- ◆フレッシュ農業ガイド講座を開催しました
- ◆相双地方の農業土木に関すること ほか

ロボットトラクタ現地実証見学会を開催しました（農業振興普及部）

県では、生産コストの低減と安定した収益が確保できる新しい農業のモデルを構築するため、ICT やロボット技術を活用した現地実証試験を相馬地方で実施しております。その中で今回、ロボットトラクタの開発実証についてご紹介します。

ロボットトラクタは、GPS 等を用いたほ場位置及び直進の制御、トラクタの走行や作業機制御をコントロールエリアネットワーク（CAN）により統合して、ほ場を無人で作業をさせる機能を有しており、同一ほ場内でも複数のトラクタを同時に作業させることが可能です。

平成28年11月29日に南相馬市原町区渋佐南谷地の水田で「現地実証見学会」を開催したところ、農業者、関係機関・団体の職員、マスコミなど約150名が参加され、ロボットトラクタと有人トラクタによる同時耕耘作業が行われたほか、実演後の意見交換では多数の質問が出されるなど関心の高さが伺えました。



耕耘作業を見入る見学者の皆さん



一畝置きに耕耘するロボットトラクタ
(前がロボットトラクタ)



開発担当者の説明を熱心に聞き入る参加者

フレッシュ農業ガイド講座を開催しました（双葉農業普及所）

平成28年12月16日に、いわき市において、フレッシュ農業ガイド講座を開催いたしました。

本講座は高校生を対象に、現地での農業経営者との交流を通じて、農業という仕事への興味・関心を高めてもらうことを目的に、開催しているものです。

今回は、双葉翔陽高等学校の生徒5名が、いわき市平赤井でトマトの生産から6次化事業までに取り組む「あかい菜園株式会社」を訪問。代表取締役の船生典文氏より説明を受けながらトマト栽培施設を見学し、ミニトマトの収穫・調整作業を体験しました。大規模なトマト栽培を実際に見るのは初めてという生徒達からは、積極的な質問がなされ、農業のイメージの幅を広げる有意義な講座となりました。



トマト栽培施設で説明を受ける双葉翔陽高等学校生徒の皆さん



相双地方の農業土木に関すること（農村整備部）

海岸は海岸法に基づいて管理者が区分されており、背後地の利活用状況等から、いわゆる「農地海岸」や「建設海岸」等に区分されています。

相双農林事務所が管理している農地海岸のうち、津波により被災した浅見川地区海岸（広野町）と蛭沢地区海岸（南相馬市小高区）の復旧が、昨年10月と12月にそれぞれ完了しました。

今回2つの農地海岸が復旧したことにより、被災した管内19農地海岸のうち、7海岸において保全施設の復旧工事が完了しました。

浅見川地区海岸の周辺では、県道の嵩上げや河川改修、防災緑地の整備（いずれも県土木部）が同時に行われており、広野町は「多重防御」の防災機能を備えた、安全で安心できるまちづくりへと着実に前進しています。

また、蛭沢地区海岸についても、隣接する井田川地区海岸や海岸防災林による盛土工事が進んでおり、これらの完成により津波に強い防災効果の発現が期待されます。

現在、農村整備部では、被災したその他の農地海岸の復旧を進めており、平成30年度末までの完成を見込んでいます。



浅見川地区海岸（奥の煙突は広野火力発電所）



蛭沢地区海岸の施設全景（海口開門と内陸に伸びる潮遊び工）
手前海岸は復旧中の井田川地区海岸

苗木のホームスティ・スタートセレモニー、スクールスティについて（森林林業部）

「苗木のホームスティ」は、平成30年に南相馬市において開催される第69回全国植樹祭等で植樹する苗木を、一般家庭や企業等に育成してもらうことより、植樹祭開催の気運を高め、本県の豊かな森林を未来へ引き継いでいくことを目的に実施しています。

苗木の配布にあたっては、参加者の代表に対して「苗木のホームスティ・スタートセレモニー」が県内7方部（計15箇所）で実施され、相双地方では、去る平成28年11月21日（月）、下記3企業において「スタートセレモニー」を実施しました。

相双管内では、下記3企業を含む、延べ31企業（団体）く、個人では12名のご協力により4,740本の苗木が育てられています。



タニコー株式会社（セレモニー開催：小高工場）



株式会社 IHI





丸三製紙株式会社



育成記録及び観察状況



育成苗木の状況

上記ホームスティとは別に、子どもたちの森林（もり）づくりへの関心を高めるために、全国植樹祭等で使用する苗木を小学校の児童のみなさんに育ててもらう「苗木のスクールスティ」も実施中です。

相双管内では、参加27校が平成27年度より「どんぐり」から育てている苗木と、配布した苗木を育てています。

大切に育てられた苗木は、平成30年に南相馬市で開催される第69回全国植樹祭や地方植樹祭関連イベント等で使用されます。

第2回そうそう・6次化ネットワーク交流会を開催しました（企画部）

いわき地方での交付金等を活用した大規模な取組や6次化商品の販路開拓、ブランディング、農商工連携による商品開発など、農林水産物の高付加価値化についての先進地視察研修会を平成29年1月26日に開催し、相双地方の6次化ネットワーク会員等19名が参加しました。

研修会では、株式会社ワンダーファーム、アグリ物産株式会社、一般社団法人いわき6次化協議会の3事業者を訪問し、それぞれの取組についての研修及び意見交換を行い、相双といわきの地域を越えた新たな連携、マッチングのきっかけづくりとなりました。

参加者からは、「個人で取り組むのではなく、連携やコラボレーションが大切だと感じた」、「今後6次化に取り組むためのアイデアをもらえた」などの声が聞かれました。

今後も、相双地域での地域産業6次化の推進のため、事業者同士の交流やマッチングの機会創出に努めます。



(株)ワンダーファーム内のトマト栽培施設



アグリ物産(株)の取組事例研修



(一社)いわき6次化協議会による開発した6次化商品と地元野菜の試食





いちご収穫・スイーツづくりときのご栽培見学ツアーを実施しました（企画部）

相馬地方の小学生を対象に、地元の農業・林業の魅力を感じ地域への愛着を深めてもらおうと、日帰りバスツアーを平成29年2月5日に実施しました。

新地町・相馬市・南相馬市・飯舘村に在住・在籍している小学生と保護者18組36名の参加があり、初めに相馬市の和田観光苺組合を訪問し、いちご栽培の取り組みや、津波による被災からの復興への経緯などを聞いた後、いちごの収穫を体験しました。次に新地町のきのこ栽培農家へ移動して、出荷制限からシイタケ栽培の再開への経緯などの説明を受け、ビニールハウス内での原木シイタケ栽培を見学しました。その後、新地町の鹿狼の湯に移動して、新地産の蕎麦粉を使った蕎麦がきづくりを体験し、参加者親子で自ら作った蕎麦がきをその場で味わいました。

昼食後は、相馬市の大野公民館へ移動し、和田観光苺組合で参加者自ら収穫したいちごを使い、2種類のいちごスイーツ（いちごのトライフル・チョコいちご）づくりを体験しました。

参加者からは「子どもに相馬地方を始め、県産農産物は安全なんだということを感じてもらいたいと思い、ツアーに参加した。」「相馬地方の農林業の復興や風評払拭に頑張っている姿について知ることができた。このようなツアーを多く開催してもらいたい。」との意見がありました。



いちごの収穫体験



ビニールハウス内での原木シイタケ栽培



収穫したいちごを使ったスイーツづくり体験

農林事務所からのお知らせ（企画部）

平成28年度農林水産業再生セミナーを開催します。

農林水産業イノベーションプロジェクト等を取り入れた新しい農業の展望や可能性と木質バイオマスなど森林資源の有効活用をテーマに、講演や成果発表を行い、浜通り地方における農林水産業の復興・再生に役立てるため、農林水産業再生セミナーを開催しますので皆様お誘い合わせの上、ふるってご参加下さい。

- と き 平成29年3月13日（月）
- ＜第1部＞ 10：30～12：00（木質バイオマス関連）
- ＜第2部＞ 13：15～15：45（農林水産業イノベーションプロジェクト等関連）
- ところ 環境創造センター環境放射線センター 1階 大会議室
（南相馬市原町区萱浜字巣掛場45-169）

参加申し込み/問い合わせ先 福島県相双農林事務所 企画部
☎0244-26-1153、FAX0244-26-1181



 <p>ふくしまからはじめよう。 Future From Fukushima.</p>	<p>☎ 福島県相双農林事務所 企画部 地域農林企画課 〒975-0031 福島県南相馬市原町区錦町一丁目30番地 Tel：0244-26-1153 Fax：0244-26-1181 http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36260a/ E-mail kikaku.af06@pref.fukushima.lg.jp</p>
--	---

